



花はなぜ咲く

日本は四季のある国。四季折々の花が私たちを楽しませてくれる。逆に、真昼の温度が50度を超す高温、夜は零度近くまで下がる砂漠のような劣悪な環境下でも、植物は花を咲かせる。メキシコの強烈なお酒テキーラは『竜舌ラン』から作る。その『竜舌ラン』は、十数年に一度花を咲かせるという。そして、咲き終わると一生を終える。

花はなぜ咲くのか？

その目的は子孫を残すためのみだ。熱帯に咲くショクダイオオコンニャクからは、肉が腐ったような強烈な臭いがする。その匂いによって昆虫を集め、遺伝子である花粉を運ばせ、受粉させるためだ。そしてやがて花は枯れ、実となる。これが花の一生である。

なぜ腐った肉なのか？

お祝いなどで贈られる、高価で可憐な『胡蝶蘭』なかなか花を咲かせるのは難しい。咲かせるコツは『徹底的にイジメ抜くこと』真夏の暑い時期に水をやらない。やがて葉っぱはしおれ枯れる寸前になる。そこまで追い込むとランは、もう死ぬと思い、子孫を残そうと花をつけやがて実を残す。



人間も一緒。

時期を見て、心を鬼にし厳しく育てよ！

情報提供：特別情報紙

矢野経済研究所、2016年リフォーム市場は前年比1%増と予測

毎年リフォーム市場規模を発表している矢野経済研究所(東京都中野区)では、このたび「2016年版住宅リフォーム市場の展望と戦略」というレポートを発表した。リフォーム市場はどうなるのか聞いた。2015年は2%減

——レポートでは2015年のリフォーム市場規模は「前年割れ」と報告しています。これはどのような要因なのでしょう。

数値としては前年比2%減の6兆4851億円と微減です。一般的なリフォームにあたる「設備修繕・維持関連費」の部分が、消費増税の反動減の時期と比較しても、約1%減少している。上半期はそんなに悪くなかったが、11月以降が悪かった。そして2016年は1.1%増の6兆5542億円と予測しました。

——市場は停滞していると。

2016年は10%への消費増税で駆け込みがあるのではと期待されていたが、それがなくなり、今年はプラスにもマイナスにも市場に対して特別大きな影響を与えるものがない。

——市場はこれから伸びるのか。

消費税が8%に上がった時は、リフォームの駆け込み需要はもちろん、経済も、株価も上昇局面にある環境下でした。その時の市場規模は7兆円近くになりました。

——今後、リフォーム市場はどうなっていくとみえますか。

リフォーム市場規模はベースとしては伸びてきています。住宅ストックが増え、リフォームユーザー層とされる50歳以上が増えていますから。さらに言えば、リーマンショック後のリフォーム市場規模は6兆円規模を下回っていたことを考えると、緩やかには伸びてきている。

中古住宅に伴う改修に期待

——今後成長が期待される分野はどのようなものになりますか。

例えば、中古住宅を買い取ってリフォームして売る「再販事業」にからむリフォームなどは、今後成長が期待されるのではないかと考えています。また、中古住宅の購入時にリフォームをするようなケースも増えていくと思います。中古住宅購入とリフォーム工事代が一本化して住宅ローンが組めるようになるなど、簡易なリフォームしかできなかった層が大規模リフォームができるような環境が整備されつつありますからね。

——中古市場は伸びる余地があると。

実際に国も既存住宅流通市場を倍増させようとしているわけですからね。

——他に市場が伸びる要素となるトレンドはありますか。

内装・設備などのIoTが出てくると、もう一段ステージが上がるのではないかと。便利なものがいろいろ出てきたら、リフォームしようという人が増えると考えられます。

■リフォーム市場規模予測

野村総合研究所では2025年の市場規模を6兆5000億円と予測。富士経済では2018年度の予測として8兆1160億円としている。

情報提供：矢野経済研究所